



| | |
|--------------|---|
| Title | 産研ニュースレター 第55号 |
| Author(s) | |
| Citation | 産研ニュースレター. 2015, 55, p. 1-8 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/77408 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

新たな研究室を迎え、 新年度スタート!

2015.06

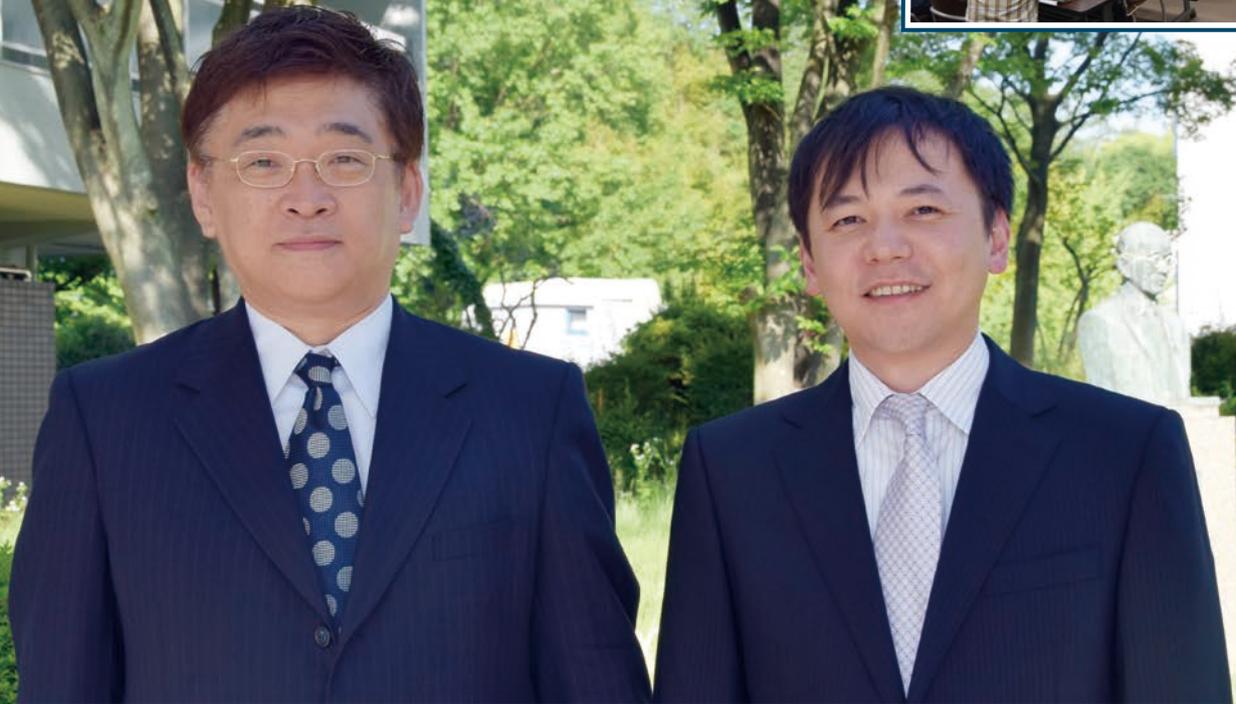
vol.
55

大阪大学
産業科学研究所

The Institute of
Scientific and Industrial Research,
Osaka University

- 新任教授紹介 黒田 俊一(生体分子反応科学研究分野)
西野 邦彦(生体分子制御科学研究分野)
- 第5回 物質・デバイス領域共同研究拠点活動報告会
- 平成26年度アライアンス成果報告会
- いちよう祭 産業科学研究所一般公開 2015
- 第74回産研テクノサロン開催 ● Nanotech2015 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議に出展
- シンポジウム「～未来を拓く植物バイオのチカラ～ 遺伝子組換え植物の現状と展望」開催
- 平成26年度教授最終講義、さよなら茶話会開催 ● 産研での思い出・退職者の紹介 ● 試作工場 機械加工室
- 「第2回産研OB・OG/学生交流会&産研キャリアミーティング2015」を開催

新任教授 講演会



今年、新たに2名の教授が着任され、5月21日に新任教授講演会が開かれました。
新しい研究室を構えられたお二方の新たな活躍が期待されます。



黒田 俊一

第3研究部門
生体分子反応科学研究分野
略歴

京都大学農学部農芸化学科
京都大学大学院農学研究科(修士)
武田薬品工業株式会社生物工学研究所
神戸大学バイオシグナル研究センター 助手・助教授
大阪大学産業科学研究所 准教授
名古屋大学大学院生命農学研究科教授

講演タイトル:

次世代ナノメディシン開発を加速する薬物送達技術
及び細胞工学技術について

抗体医薬、サイトカイン、ワクチン、RNA 医薬等のバイオ医薬品は、100兆円規模に成長した世界の医薬品市場において大きな割合を占めつつあります。特に、がん、循環器系疾患、脳神経系疾患における知見が蓄積されてきており、画期的なバイオ医薬品候補が創製されつつあります。

しかし一方で、これらの候補を患部において適切に作用させる技術(薬物送達技術)や大部分のバイオ医薬品生産に必要な動物細胞培養技術がボトルネックとなっており、本格的なバイオ医薬品の普及にはブレークスルー技術の出現が待たれています。講演では、両技術開発における黒田教授がこれまで取り組まれた研究成果と今後の展望について紹介されました。

着任コメント

2015年4月1日付で谷澤克行先生の後任として、6年振りの産研に赴任しました。准教授時代の私を育ててくれた産研に、これからは恩返しなくてはと考えており、身が引き締まる思いです。新しく発足した本生体分子反応科学研究分野では、産研内外の研究室と連携しながら、今世紀の医療技術の目玉であるバイオ医薬及び関連技術の研究開発をさらに加速させ、一日でも早く社会還元できるように頑張る所存です。よろしくお願い致します。



西野 邦彦

第3研究部門
生体分子制御科学研究分野
略歴

大阪大学 薬学研究科(博士)
日本学術振興会特別研究員(PD)
大阪大学産業科学研究所 新産業創造技術基盤研究センター 特任助手
(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきがけ研究者(兼任)
大阪大学産業科学研究所 特任助教
大阪大学産業科学研究所 助教
大阪大学産業科学研究所 准教授

講演タイトル:

排出系膜輸送体の機能と制御
-生命活動維持における捨てることの重要性-

排出系膜輸送体は、全ての生物の細胞膜に存在しており、細胞レベルのもっとも基本的な生体防御機能を担っています。病原細菌において排出系膜輸送体は、多剤耐性化や病原性発現に関与していることから、新たな創薬ターゲットとして注目されています。講演では、排出系膜輸送体機能と制御機構の基礎科学と、西野教授の研究成果にもとづく難治性感染症克服の新規治療戦略について紹介されました。

着任コメント

2015年2月16日付で第三研究部門の生体分子制御科学研究分野を担当させていただくことになりました。1998年に薬学研究科の大学院生として産業科学研究所にて研究を開始して以来、これまで研究所の多くの先生方、事務の方々、皆様には大変お世話になり、改めて感謝申し上げます。研究室では生物が保持している巧みな適応力と進化の仕組みを明らかにした上で、それを利用した新しい治療戦略の開発を目指しています。気持ちを新たに頑張りたいと思いますので、今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

第5回物質・デバイス 領域共同研究拠点 活動報告会



平成27年4月20日(月)、九州大学伊都キャンパス カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所において、来賓として文部科学省研究振興局学術機関課長牛尾則文様、九州大学理事若山正人先生をはじめ、運営委員会、共同研究推進委員会の各委員をお迎えし、ネットワーク拠点を構成する研究者及び共同研究参画者の計281名(内九大伊都キャンパス会場147名、他4附置研究所サテライト会場134名)の参加により開催されました。当番校の九大先導研の高原淳所長からの開会挨拶、来賓挨拶に続き、拠点本部長八木康史産研所長より拠点活動概要の説明があり、引き続き拠点活動の成果報告として各研究領域より共同研究者2名による口頭発表、4名によるポスター発表、また、阪大産研サテライト会場より双方向配信の形で2件の口頭発表がありました。これまでの2期4年間にわたり実施された特定研究に関してA課題について阪大産研の田中秀和先生、B課題について東北大多元研の和田健彦先生より総括の講演がなされました。プログラムの最後には帝人株式会社顧問、山岸隆様より“変わる企業イメージ「創造と革新」”と題して特別講演がありました。報告会後には意見交換会が開催され、特に今後のネットワーク型共同研究拠点の方向性に関して活発な意見が交わされました。

附置研究所間アライアンスによる ナノとマクロをつなぐ 物質・デバイス・システム創製 戦略プロジェクト 「H26年度アライアンス成果報告会」

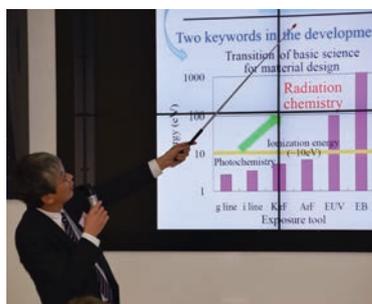


標記の会が平成27年4月21日(火)、九州大学伊都キャンパス カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所において、来賓として九州大学理事若山正人先生、7名の外部有識者をお迎えし、アライアンスを構成する研究所メンバーの計171名の参加により開催されました。当番校の九大先導研の高原淳所長からの開会挨拶、若山理事からの挨拶に続き、運営委員長垣花真人多元研教授よりアライアンス活動概要の説明があり、引き続きG1-G4の各グループでの活動状況の紹介及び2件ずつの口頭発表、及び全体で80件のポスター発表がありました。報告会後には意見交換会が開催され、アライアンス活動に関して外部有識者より多くの貴重なコメントをいただくとともに、附置研間アライアンスの方向性に関して活発な意見が交わされました。

第74回(平成26年度第4回)産研テクノサロン

「社会を変える新材料」をテーマに、第74回産研テクノサロンが2月6日に産研インキュベーション棟講義室において開催されました。産研には材料関係の研究室がたくさんありますが、今回は古澤孝弘教授による「半導体リソグラフィ材料の現状と展望」、能木准教授による「セルロースナノファイバーによるペーパーデバイス」と題した講演が行われました。また、外部からは、愛媛大学の澤崎達也教授から「タンパク質合成技術開発の現状と展望」、デュポン株式会社の林隆一執行役員から「デュポンのイノベーションと日本における技術開発」について講演が行われました。

産研テクノサロンでは、産業界とのネットワークを構築し、産研の研究成果を産業界との連携を通じて実用化・産業化に繋げることを目指しています。今回も多くの方が参加され、技術内容や応用展開について質疑応答や意見交換が行われ、講演会後の親睦交流会においても活発に情報交換や連携についての相談が行われました。

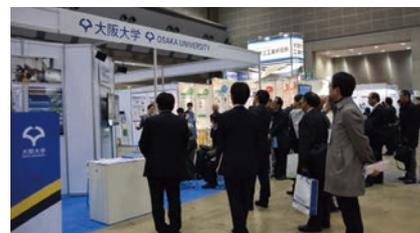


Nanotech 2015 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議に出展

Nano tech 2015 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議(主催:nano tech 実行委員会)が平成27年1月28日(水)～30日(金)、東京ビックサイトに開催されました。この展示会は、近年産業への発展が著しいナノテクノロジー分野について、国内外から、研究開発、産業製品に至るまでの発表、展示をする世界最大のナノテクノロジー総合展示会です。開催3日間での来場者数は約5万人にも上る盛大な展示会でした。

産業科学ナノテクノロジーセンターでは、大阪大学ナノサイエンスデザイン教育センター、未来研究イニシアティブ・グループ(計算機ナノマテリアルデザイン新元素戦略グループ、グリーンナノマテリアル“ものづくり”グループ、大阪大学ナノサイエンス・ナノテクノロジーアライアンス)と合同でブース出展を行いました。産業科学研究所及び産業科学ナノテクノロジーセンターの概要、各研究室の最新の成果などを内外に広くアピールしました。ポスターや物品展示し、研究内容・成果を紹

介するスライドを上映、パンフレットを多数配布し、非常にたくさんの来場者に展示ブースを訪れていただきました。また3日目には、「大阪大学におけるナノ科学技術の研究と人材育成の御紹介」と銘打ったシーズセミナーを行い、ナノ理工学関連の部局横断研究連携活動、関西における組織横断研究連携活動、大阪大学の最先端研究シーズ、最先端機器の共同利用についての紹介を行いました。情報発信とともに、各国の大学、研究所、企業のナノテクノロジーに関する動向、最新の取り組みを知る良い機会となり、他の出展者や来場者の方々との情報交換も出来、有意義な展示会参加となりました。



「平成26年度ナノ工学」講義

平成27年1月21日・23日の2日間、「平成26年度ナノ工学」講義が産業科学研究所管理棟講堂で行われました。

ナノ工学は、産業科学研究所の全教員が担当する集中講義です。本来は、工学研究科(大学院)の科目ですが、産研所属の学生にもオープンに受講できる講義として毎年開催しています。

1日目は、大岩顕教授、磯山悟朗教授、滝澤忍准教授、白井光雲准教授による講義が行われました。最近の研究成果についても紹介され、最新のナノ工学を学ぶ絶好の機会となりました。2日目は、田中秀和教授、谷口正輝教授によるナノテクノロジーを用いた微細加工に関する講義が行われ、受講者は実際にクリーンルームでナノデバイス作製の基本になる成膜、フォトリソグラフィ、現像、蒸着、リフトオフといった一連の操作も学びました。



シンポジウム「～未来を拓く植物バイオのチカラ～ 遺伝子組換え植物の現状と展望」開催

平成27年3月28日(土)に、シンポジウム「～未来を拓く植物バイオのチカラ～ 遺伝子組換え植物の現状と展望」が、大阪富国生命ビル4Fの産学連携活動支援施設テラプロジェクト・まちラボで開催されました[主催:日本学術振興会植物バイオ第160委員会、共催:(一財)大阪大学産業科学研究協会・(一社)テラプロジェクト]。知的財産研究分野の教員が企画し、遺伝子組換え植物の市民理解を深める目的で、特に中学校、高校の教諭らの参加が多くありました。

講演の部では本研究所副所長の永井教授による、発光植物の未来活用についての講演等があり、実習の部では、遺伝子組換えパパイアの試食に加え、光る植物を想定した化学発光の実験、花の色と香りの抽出実験が実演されました。また、中学校や高校で同様の実験を行う際のポイントも説明されました。

遺伝子組換え植物について理解が深まったとの好評を得ました。平成27年夏にも、同様の趣旨のシンポジウムを、小学生らを対象に行う予定です。



講演する
永井教授



実習の様子

平成26年度最終講義、さよなら茶話会を開催

平成27年3月31日をもって、谷村克己教授(励起物性科学研究分野)が定年退職されました。これを記念して、3月4日に産研講堂において最終講義が行われました。また、引き続き、平成26年度に定年退職される方々を囲むさよなら茶話会が開催されました。平成26年度は、谷村克己教授、江村修一助教、新田孟助教、松川博昭技術室計測班長、三田敏事務部長が定年退職されました。八木所長からの開会の挨拶と送別の辞、退職者の挨拶、花束と饗別の贈呈の後、磯山教授による乾杯の発声により会は始まりました。教職員、学生などの参加者が退職者の新たな門出を祝福し、終始和やかに歓談した後、閉会の挨拶として吉田副所長から暖かい言葉が贈られました。



谷村 克己教授「励起物性科学への道」



さよなら茶話会

大阪大学いちょう祭

産業科学研究所一般公開(5月1日~2日)

いちょう祭は、大阪大学の創立記念日(5月1日)を祝し、新入生の皆さんを歓迎するとともに学生・教職員・地域の方との親睦を図る行事です。産研では、「産業×科学=イノベーション!」をテーマに一般公開と産研新人オリエンテーションを行いました。

研究室・施設の一般公開

開催日の2日間とも天候に恵まれ、来場者は2日間合計で473名でした。今年は講堂にブースを設け、新たにスタンプラリーも開催したこともあり、例年にない盛況ぶりでした。

各研究室をコース別に見学するツアーも2日間で130名の参加があり、年齢問わず多くの方々に産研の研究に触れていただきました。



サイエンスカフェ

2日、恒例となった産研所属の学生スピーカーが自身の研究を紹介する「サイエンスカフェ」は、61名の方にご参加いただきました。一般の方に自身の研究を紹介するという、難しいながらもやりがいのある機会を得た4名の学生さんたちには、終了後、参加者の方々から温かい拍手を受けました。



- 次世代パワー半導体の適用に向けて～銅膜を用いた接合技術の開発～ / 芥川 頌(菅沼研)
- ワイヤレスコミュニケーションに向けた小型フレキシブルペーパーアンテナ / 乾 哲治(菅沼研)
- 極小カプセルで狙い撃ち!～副作用の少ない薬物送達カプセルの開発と応用～ / 曾宮 正晴(黒田研)
- 目指せ!かっこいいコンピュータ!!～ものごとの理解を支えるオントロジー工学～ / 増田 壮志(駒谷研)

産研新人オリエンテーション

新任の教職員、学生のために各研究分野や施設の説明会と懇親会を含めた産研新人オリエンテーションを「いちょう祭」に合わせて開催しています。説明会の後、一般公開の見学ツアーに参加し、自身の分野とは異なる研究にも触れました。夕方の懇親会では、「自分の所属以外の人と3人は会話しよう」の命題に応え、皆さん多くの方と会話も弾ませ、おおいに盛り上がりました。



産研での思い出

平成26年度限りで定年退職を迎えられた3名の方に産研での思い出をお寄せ頂きました。

江村 修一

(量子システム創成研究分野 助教・2015年3月31日退職)

私が学生で産研に配属された当時は、今と違って厚生関係の行事がそれなりに催されておりまして。中でも、8月下旬に開催されていたスポーツ大会は圧巻で、さまざまなスポーツを網羅しての全学大会でした。当時の一番人気はやはりソフトボール競技でして、吹田地区、豊中地区、中之島地区のそれぞれで予選があり4チーム、3チーム、1チームが本戦に出場と言う段取りでした。吹田地区はおおよそ45~50チームの予選となり、6月~7月にかけての予選を勝ち抜いてそこからの4チームですのでかなりの激戦となります。産研からは技術室・事務チームが本戦出場の常連でした。教官側にもかなり上手で好き者がおられたので、教官チームを結成し予選大会に参加致しましたが、一回目は初戦で敗退したように記憶しております。しかし、年を重ねるに従って

勝ち抜いて行きました。その内ひょんな事から本戦出場枠のベスト4まで勝ち抜き、他は知らず、我々はこの先二度と無いかもしれないと言うことで準決勝・決勝と手を抜かず戦ってきました。当然、準決勝・決勝はそれほど意味がありませんので、相手は普段は出てこない多彩なメンバーを出してきます。その結果、勝ってしまい優勝を果たしました。決勝には当時の所長の三角先生にもお願いして出させていただきました。

文末で恐縮ですが、研究面ではなんとと言ってもSpring-8でXAFS専用ビームラインを提案・建設した事でしょうか。それに絡んで、収量法測定で観測される特異なスペクトルを再現する一般理論を構築した事が強く記憶に残っております。



新田 孟

(医薬品化学研究分野 助教・2015年3月31日退職)

産研の教官として三代の先生にお世話になり、医薬品関連化合物の合成研究に取り組んで来ました。常にチャレンジ精神で諦めない気持ちで邁進し、多くの先生方に有用な御指導、ご鞭撻を頂き、高度な技術、知識を習得させて頂きました。この間多数の方と出会い出来ました事に感謝し、心より

お礼申し上げます。

多機能分野を有する研究所の存在を偉観なき發揮され、更なる発展を祈願しますと共に自然環境に恵まれた研究所が長く存続する事を望みます。



松川 博昭

(技術室 計測班長・2015年3月31日退職)

私は1973年4月に技術職員として産研の一員になり、42年間にわたりガラス工作技術者として研究支援をさせていただきました。

当時の産研は第一研究棟、工場棟、放射線実験所、管理棟だけで第二研究棟の辺りには小さい運動場がありました。運動が好きなのは野球、ソフトボール、テニスなどでよく遊びました。また、運動会&ビアパーティーも開催されていました。このイベントは土曜日の昼から産研構成員の家族も交え、周りの自然豊かな林を眺めながら和気藹々と楽しく過ごしたことを思い出します。

私が仕事に自信ができた頃は理系のノーベル賞受賞者は3名程でした。そ

の頃に私の設計・製作した装置や実験器具を使って、ノーベル賞を取ってみたいという夢を持ちました。残念ながらこの夢はまだかかないません。しかし、これからを支える優秀な技術室のメンバーに夢を託したいと思います。

定年後も再雇用で暫く同じ支援業務をさせていただきますが、区切りの年として長年に亘りご指導ご鞭撻を賜りました皆様に深く感謝すると共に厚く御礼申し上げます。



「第2回産研OB・OG/学生交流会&産研キャリアミーティング2015」を開催

5月2日(土)、産研インキュベーション棟講義室にて、産研院生会議、産業科学連携教育研究センター、企画室の共催により「第2回産研OB・OG/学生交流会&産研キャリアミーティング2015」を開催し、産研OB・OGおよび現役学生が約40名参加しました。

今回は、従来交流会に加え、「産研キャリアミーティング」として、野本 琢也さん(旧新原研卒)、大澤 奈々穂さん(八木研卒)、日本ガイシ株式会社 セラミックス事業本部センサ事業部の藤井 雄介さん(松本研卒)、株式会社カネカ 太陽電池・薄膜研究所の檜崎 貴吉さん(田中研卒)をお迎えし、これから社会へ出る後輩へ向けて、就職活動の経験談、社会に出てわかる産研の強み、学生時代しておくべきこと、企業で働くこと等アドバイスを頂くとともに、質疑応答や交流が行われ、OB・OGと学生の親睦が図られました。



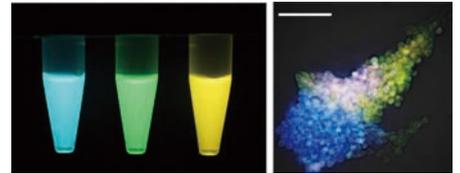
肉眼でも観察できる！ 従来の20倍光るタンパク質を開発

生体分子機能科学研究分野(永井研究室)

大阪大学産業科学研究所永井健治教授、理化学研究所生命システム研究センターの岡田康志チームリーダーらの研究チームは、2012年に開発した黄緑色の超高光度発光タンパク質Nano-lantern(ナノ・ランタン[®])を改良して、さらに明るく光る青緑(シアン)色およびオレンジ色の超高光度発光タンパク質の開発に成功しました。いずれも従来の発光タンパク質の20倍程度明るく光るため、特殊な超高感度カメラを使わなくとも、肉眼やスマートフォンのカメラでその発光を観察することが出来ます。

この成果は、米国科学アカデミー紀要(Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America (PNAS)) (3月23日(月)(米国東部時間))のオンライン版で掲載されました。

ナノ・ランタン波長変異体とそれらを用いた発光イメージングによる遺伝子発現解析。
スケールバーは100 μm

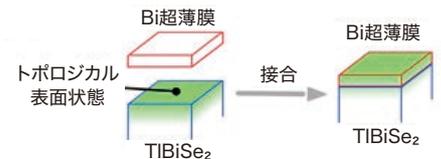


普通の金属にトポロジカルな性質を付与することに成功 一次世代省エネ電子機器の開発へ新たな道

ナノ機能予測研究分野(小口研究室)・量子機能材料研究分野(安藤研究室)

東北大学原子分子材料科学高等研究機構の高山あかり研究員(現東京大学大学院理学系研究科助教)と高橋隆教授、同大学院理学研究科佐藤宇史准教授、大阪大学産業科学研究所小口多美夫教授、安藤陽一教授らの研究グループは、ビスマス(Bi)金属薄膜の端(エッジ)で、電子の運動方向と連動してスピンの向きが揃う「ラシュバ効果」が起きていることを世界で初めて突き止めました。

この成果は、平成27年2月9日(米国時間)に、米国物理学誌「Physical Review Letters」オンライン版で公開されました。



From 広報室



新システム導入でさらに迅速に研究をサポート!

試作工場 機械加工室

試作工場機械加工室は、産研が創立された1939年当初からガラス加工室と共に設置された施設です。

さまざまな研究分野で使用する実験装置や器具を試作の段階から研究者と常に綿密な連携をとりながら設計制作しています。

場所は、インキュベーション棟地下1階にあり、産研所属の教職員が利用できます。室内には、マシニングセンタや5軸加工機、CNC旋盤を始め各種汎用工作機械、溶接機器など研究者の様々な要請に応える加工に必要な装置が多種揃っています。

新たに3次元CAD/CAMシステムを導入

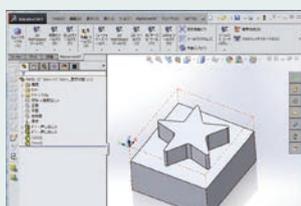
平成26年12月から、より迅速かつ高精度な加工のサポートを行うため3次元CAD/CAMシステムを導入しました。2次元・3次元曲面の加工が可能になり、多数の穴加工・ネジ加工も設計から製造までを従来の半分以下の時間で加工を行うことができるようになりました。

導入したsolidworksにはアセンブリ機能があるため、装置開発において予め各部品の干渉や完成図を3次元で確認することができます。

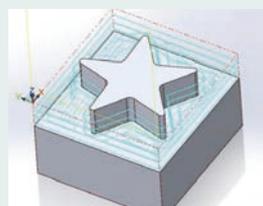
また、単部品であれば応力解析も行うことができるため、材料強度の確認や最適化された寸法の部品を作るといったことも可能です。設計を検討するならば、まずは機械加工室にお気軽にご相談ください。



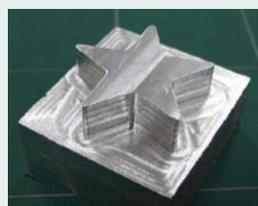
5軸加工機



Solidworksで完成図を3次元で確認



CADCAMシステムにより短時間で加工が可能に



受賞一覧 (平成27年2月1日～平成27年5月31日)

| | | |
|-------|--|------------------|
| 関谷 毅 | 科学技術分野の文部科学大臣賞若手科学者賞 | 文部科学省 |
| 金井 康 | 船井研究奨励賞 | 公益財団法人船井情報科学振興財団 |
| 竹中 和浩 | 日本化学会 若い世代の特別講演 | 日本化学会 |
| 山崎 聖司 | 第88回日本細菌学会総会 優秀発表賞 | 日本細菌学会 |
| 古崎 晃司 | 大阪から考えるCivic Techアプリコンテスト アプリ・Webサービス部門 優勝(グランプリ) | 大阪市 |
| 山崎 聖司 | 大阪大学薬友会賞 奨励賞 | 大阪大学薬友会 |

| | | |
|-------|------------------|------------------------|
| 開発 邦宏 | 茶学術研究会 ポスター賞 | 茶学術研究会 |
| 関谷 輝夫 | 情報システム教育コンテスト奨励賞 | (社)情報処理学会 情報処理教育委員会 |
| 関谷 毅 | 中谷奨励賞 | 公益財団法人中谷工計測技術振興財団 |
| 関谷 毅 | コニカミノルタ画像科学奨励賞 | 公益財団法人 コニカミノルタ科学技術振興財団 |
| 関谷 毅 | 丸文研究奨励賞 | 一般財団法人丸文財団 |
| 能木 雅也 | 朝日21関西スクエア賞 | 朝日新聞社 |

新任教職員一覧 (平成27年2月1日～平成27年5月31日)

| | | |
|--|--|--|
| 平成27年2月1日 | | |
| 採用 特任准教授(常勤)(先端電子デバイス) | 植村 隆文 | |
| 採用 特任研究員(常勤)(先端実装材料) | 浅倉 紀夫 | |
| 採用 特任研究員(常勤)(先端実装材料) | 木本 幸治 | |
| 採用 特任研究員(先端電子デバイス) | 松本 孝典 | |
| 採用 事務補佐員(研究連携課研究協力係) | 谷計 博子 | |
| 平成27年2月2日 | | |
| 招へい 外国人研究員(客員教授) (産業科学ナノテクノロジーセンター) | CHOI Jungkweon | |
| 平成27年2月16日 | | |
| 昇任 教授(生体分子制御科学) | 西野 邦彦(第2プロジェクト(感染制御学)准教授から) | |
| 採用 助教(複合知能メディア) | 大倉 史生 | |
| 採用 助教(先端ハード材料) | 後藤 知代 | |
| 配置換 特任研究員 (常勤)(客員教授)(生体分子制御科学) | 松本 佳巳(第2プロジェクト(感染制御学)から) | |
| 配置換 特任助教(生体分子制御科学) | 西野 美都子(第2プロジェクト(感染制御学)から) | |
| 採用 事務補佐員(知能アーキテクチャ) | 大塚 光代 | |
| 採用 事務補佐員(知能アーキテクチャ) | 山本 亜希子 | |
| 招へい 外国人研究員(客員教授) (産業科学ナノテクノロジーセンター) | MOZUMDER Asokendu | |
| 平成27年3月9日 | | |
| 採用 助教(先端電子デバイス) | 吉本 秀輔(スタンフォード大学 Postdoctoral fellowから) | |
| 採用 特任研究員(先端実装材料) | 木武 愛士 | |
| 採用 事務補佐員(先端実装材料) | 山脇 里望 | |
| 採用 事務補佐員(ナノ機能予測) | 栗林 千彰 | |
| 平成27年3月16日 | | |
| 招へい 外国人研究員(客員教授) (産業科学ナノテクノロジーセンター) | KIM Bog Gi | |
| 平成27年4月1日 | | |
| 任命 総合解析センター長 | 加藤 修雄 | |
| 任命 量子ビーム科学研究施設長 | 真嶋 哲朗 | |
| 採用 教授(生体分子反応科学) | 黒田 俊一(名古屋大学大学院生農学研究所 教授から) | |
| 採用 助教(量子システム創成) | 木山 治樹(量子システム創成 特任研究員(常勤)から) | |
| 採用 助教(生体分子制御科学) | 山崎 聖司(日本学術振興会 特別研究員から) | |
| 採用 特任事務職員(研究連携課研究協力係) | 坂井 百々子 | |
| 採用 特別嘱託技術職員(技術室) | 松川 博昭 | |
| 昇任 事務部長 | 田中 良和(総務企画部総務課長から) | |
| 昇任 人事係長 | 藤森 隆史(総務企画部人事課給与第一係主任から) | |
| 昇任 工作班長 | 大西 政義(機械・回路工作係長から) | |
| 昇任 計測・情報システム係長 | 奥村 由香(計測・情報システム係 技術職員から) | |
| 昇任 分析・データ処理係長 | 松崎 剛(分析・データ処理係 技術職員から) | |
| 配置換 計測班長 | 小川 紀之(工作班長から) | |
| 配置換 機械・回路工作係長 | 相原 千尋(計測・情報システム係長から) | |
| 配置換 ガラス工作係長 | 柳原 昇一(分析・データ処理係長から) | |
| 配置換 研究協力係長 | 楠 高士(国際日本文化研究センター情報課電子情報係長から) | |
| 配置換 総務係員 | 福井 孝博(歯学研究科総務課庶務係から) | |

| | | |
|--|---|--|
| 平成27年4月1日 | | |
| 配置換 研究協力係員 | 中村 薫(研究推進部産学連携課受託・共同研究係から) | |
| 配置換 研究協力係員 | 田畑 慎吾(基礎工学研究所研究協力係から) | |
| 配置換 図書職員 | 小笠原 静華(附属図書館学術情報整備室から) | |
| 採用 特任准教授(常勤)(知能アーキテクチャ) | 森山 甲一 | |
| 採用 特任助教(常勤)(励起分子化学) | 金水 緑(KIM Soon Yeon) | |
| 採用 特任助教(常勤)(生体分子機能科学) | 圓谷 徹之 | |
| 採用 特任研究員(常勤)(半導体材料・プロセス 特任研究員(常勤)へ) | 小林 悠輝(半導体材料・プロセス 特任研究員(常勤)へ) | |
| 採用 特任研究員(常勤)(先端実装材料) | CHEN Chuantong | |
| 採用 特任研究員(常勤)(機能物質化学) | 坂本 勇樹 | |
| 採用 特任研究員(常勤)(生体分子機能科学) | 石田 竜一 | |
| 採用 特任研究員(常勤)(生体分子機能科学) | 加来 友美 | |
| 採用 特任教授(第3研究部門 生体・分子科学系) | 平尾 俊一 | |
| 採用 特任教授(医薬品化学) | 吉崎 和幸 | |
| 採用 特任准教授(生体分子反応科学) | 良元 伸男 | |
| 採用 特任助教(生体分子反応科学) | 飯嶋 益巳 | |
| 採用 特任研究員(量子システム創成) | 塩谷 広樹 | |
| 採用 特任研究員S(複合知能メディア) | 堀成 菊(ZHOU Chengju) | |
| 採用 特任研究員(知能推論) | 石井 陽 | |
| 採用 特任研究員(精密制御化学) | 小田部 亮広 | |
| 採用 特任研究員(機能物質化学) | MOHANTA Suman Chandra(機能物質化学 特任研究員(常勤)から) | |
| 採用 特任研究員(機能物質化学) | BAI Jianfei | |
| 採用 特任研究員(機能物質化学) | 林 賢今(LIN Xianjin) | |
| 採用 特任研究員(医薬品化学) | 新田 孟 | |
| 採用 特任研究員(医薬品化学) | 谷川 美紀 | |
| 採用 特任研究員(ナノ機能予測) | 小鷹 浩毅 | |
| 採用 特任研究員(バイオナノテクノロジー) | 保手兵 千絵 | |
| 採用 特任研究員(バイオナノテクノロジー) | 小和田 弘枝 | |
| 採用 特任研究員(客員教授) (産業科学ナノテクノロジーセンター) | 垣内 史敬 | |
| 採用 技術補佐員(知能推論) | 藤原 綾子 | |
| 採用 技術補佐員(量子機能材料) | 中村 ゆかり | |
| 採用 技術補佐員(医薬品化学) | 竹中 綾 | |
| 採用 技術補佐員(第2プロジェクト (セルロースナノファイバー材料)) | 堀江 智絵 | |
| 採用 技術補佐員(ナノテクノロジー設備用拠点) | 前川 芳美 | |
| 採用 事務補佐員(先端ハード材料) | 高原 愛 | |
| 採用 事務補佐員(生体分子反応科学) | 村井 摩由子 | |
| 採用 事務補佐員 | 梅本 由香 | |
| 採用 特任研究員(総合解析センター) | 石橋 武(励起物性科学から) | |
| 採用 技術補佐員(先端実装材料) | 難波 直子(第2プロジェクト(セルロースナノファイバー材料)から) | |
| 平成27年4月16日 | | |
| 採用 特任研究員(知能推論) | 吉田 剛 | |
| 平成27年5月1日 | | |
| 採用 特任准教授(常勤)(生体分子制御科学) | YAN Aixin | |
| 採用 特任研究員(常勤)(先端実装材料) | 吳 春舟(WU Chunhui) | |

離任教職員一覧 (平成27年2月1日～平成27年5月31日)

| | | |
|---|---|--|
| 平成27年2月15日 | | |
| 退職 事務補佐員(第2プロジェクト(極微材料プロセス)) | 塚田 恵子 | |
| 平成27年2月28日 | | |
| 退職 助教(励起物性科学) | 成瀬 延康(北海道大学 特任助教へ) | |
| 退職 特任研究員(量子ビーム物質科学) | 藤井 横哉 | |
| 退職 技術補佐員(複合知能メディア) | 日守 優美 | |
| 平成27年3月2日 | | |
| 任期満了 外国人研究員(客員教授) (産業科学ナノテクノロジーセンター) | CHOI Jungkweon | |
| 平成27年3月31日 | | |
| 定年退職 教授(励起物性科学) | 谷村 克己 | |
| 定年退職 助教(量子システム創成) | 江村 修一 | |
| 定年退職 助教(医薬品化学) | 新田 孟 | |
| 定年退職 事務部長 | 三田 敬夫 | |
| 定年退職 計測班長(技術室) | 松川 博昭 | |
| 退職 准教授(知識科学) | 來村 徳信(立命館大学情報理工学部 教授へ) | |
| 退職 准教授(量子機能材料) | 潮川 耕司(京都産業大学理学部 教授へ) | |
| 退職 准教授(量子ビーム発生科学) | 加藤 龍好(高エネルギー加速器研究機構 加速器研究施設加速器第七研究系 教授へ) | |
| 退職 助教(知能アーキテクチャ) | 森山 甲一(知能アーキテクチャ 特任准教授(常勤)へ) | |
| 退職 助教(量子機能材料) | 佐々木 聡(Leed大学(英国) Lecturerへ) | |
| 退職 助教(精密制御化学) | 武井 史恵(防衛医科大学校医学教育部医学 准教授へ) | |
| 退職 助教(ナノ機能材料デバイス) | 藤原 宏平(東北大学金属材料研究所低温物性学研究所 講師へ) | |
| 退職 特任事務職員(励起物性科学) | 清水 実生子 | |
| 退職 特任准教授(常勤)(生体分子制御科学) | YAN Aixin | |
| 退職 特任講師(常勤)(複合知能メディア) | 村松 大吾 | |
| 退職 特任講師(常勤)(ナノテクノロジーセンター) | YURTSEVER Ayhan | |
| 退職 特任講師(常勤)(ナノテクノロジーセンター) | 山崎 詩郎 | |
| 退職 特任助教(常勤)(第2プロジェクト(極微材料プロセス)) | 長島 一樹 | |
| 退職 特任助教(常勤)(バイオナノテクノロジー) | 大城 敬人 | |
| 退職 特任助教(常勤)(ナノテクノロジー設備用拠点) | 法澤 公寛 | |
| 退職 特任研究員(常勤)(量子システム創成) | 木山 治樹(量子システム創成 助教へ) | |
| 退職 特任研究員(常勤)(複合知能メディア) | Hazem Mohamed Gabr EL-ALFY | |
| 退職 特任研究員(常勤)(先端実装材料) | SINGH Manjeet | |
| 退職 特任研究員(常勤)(先端実装材料) | 崔 会旺(CUI Huiwang) | |
| 退職 特任研究員(常勤)(先端実装材料) | MOHANTA Suman Chandra(機能物質化学 特任研究員へ) | |
| 退職 特任研究員(常勤)(機能物質化学) | PEREZ Koldenkova Vadim | |
| 退職 特任研究員(常勤)(生体分子機能科学) | 寺川 澄雄 | |
| 退職 特任教授(半導体材料・プロセス) | 菅 滋正 | |
| 退職 特任教授(量子ビーム発生科学) | 森田 清三 | |
| 退職 特任教授(ナノテクノロジーセンター) | 西野 美都子 | |
| 退職 特任助教(生体分子制御科学) | 増田 茂 | |
| 退職 特任研究員(客員教授) (産業科学ナノテクノロジーセンター) | | |

| | | |
|---|------------------------------|--|
| 平成27年3月31日 | | |
| 退職 特任研究員(客員准教授) (産業科学ナノテクノロジーセンター) | 中川原 修 | |
| 退職 特任研究員(励起物性科学) | LIM Anthony Craig | |
| 退職 特任研究員(半導体材料・プロセス) | 小林 悠輝(半導体材料・プロセス 特任研究員(常勤)へ) | |
| 退職 特任研究員(客員教授)(励起分子化学) | 杉本 晃 | |
| 退職 特任研究員(機能物質化学) | 平田 修一 | |
| 退職 特任研究員(機能物質化学) | 高谷 修平 | |
| 退職 特任研究員(第2プロジェクト(極微材料プロセス)) | ZHUGE Fuwei | |
| 退職 特任研究員(第2プロジェクト(極微材料プロセス)) | HE Yong | |
| 退職 特任研究員(第2プロジェクト(極微材料プロセス)) | MENG Gang | |
| 退職 技術補佐員(先端実装材料) | 岩村 眞理子 | |
| 退職 技術補佐員(ナノ機能材料デバイス) | 畑中 治 | |
| 退職 技術補佐員(技術室) | 山本 保 | |
| 退職 技術補佐員(技術室) | 角一 道明 | |
| 退職 事務補佐員(複合知能メディア) | 安井 紀子 | |
| 退職 事務補佐員(複合知能メディア) | 家村 雅子 | |
| 退職 事務補佐員(知能アーキテクチャ) | 日下部 美佳 | |
| 退職 事務補佐員(知能アーキテクチャ) | 平林 あづさ | |
| 退職 事務補佐員(量子機能材料) | 中村 ゆかり | |
| 退職 事務補佐員(先端ハード材料) | 濱末 夕佳 | |
| 退職 事務補佐員(励起分子化学) | 富永 早苗 | |
| 退職 事務補佐員(第2プロジェクト(極微材料プロセス)) | 藤原 綾子 | |
| 退職 事務補佐員(ナノ機能予測) | 垣内 美奈子 | |
| 退職 事務補佐員(バイオナノテクノロジー) | 藤林 乃理子 | |
| 平成27年4月1日 | | |
| 配置換 人事係長 | 堀井 奈津子(未来戦略支援事務局総務係長へ) | |
| 配置換 研究協力係長 | 西村 治(医学部附属病院教育支援課研究支援係長へ) | |
| 配置換 研究協力係主任 | 東本 美紗(情報推進部情報企画課会計係主任へ) | |
| 配置換 総務係員 | 徳尾 朋静(全学教育推進機構等教務係へ) | |
| 配置換 研究協力係員 | 今村 文香(総務企画部人事課総務係へ) | |
| 配置換 図書職員 | 和田 孝子(附属図書館真面目地区図書館サービス課へ) | |
| 平成27年5月1日 | | |
| 退職 特任研究員(複合知能メディア) | 中澤 満 | |
| 平成27年5月8日 | | |
| 任期満了 外国人研究員(客員教授) (産業科学ナノテクノロジーセンター) | KIM Bog Gi | |
| 平成27年5月31日 | | |
| 退職 特任研究員(先端電子デバイス) | 松本 孝典 | |
| 退職 特任研究員(量子システム創成) | 塩谷 広樹 | |
| 退職 技術補佐員(複合知能メディア) | 入江 洋子 | |
| 退職 技術補佐員(複合知能メディア) | 飯山 亜弥 | |
| 退職 事務補佐員(先端実装材料) | 藤井 みどり | |

編集後記

春は別れと出合いの季節ですが、本号では、3月末までご退職された方々の思い出の数々をご紹介しますとともに、新進気鋭の2名の新任教授のご講演の様子をお伝えしています。hot topicsや各種シンポジウムの様子などもあわせて、盛りだくさんの内容をお届けできたのではないかと思います。最後になりましたが、年度始めのお忙しい時期に記事を執筆いただいた皆様へ厚くお礼申し上げます。(岡島 俊英)

産研ニュースレター 2015.06 第55号

発行：大阪大学 産業科学研究所 編集：産研広報室
〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 TEL&FAX:06-6879-8524
URL:http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/ E-mail:kouhou@sanken.osaka-u.ac.jp